

福岡のお宝

たんさく

～福岡市文化財ガイド～

やさしい日本語辞典

ガイドブックに書かれている言葉をやさしい日本語で説明します。

◆文化財（ぶんかざい）…表紙～全体

文化財とは、昔の生活や社会の様子や歴史を知るためのものです。昔から今まで残っている建物や仏像やお祭りは文化財です。また、昔に土の中に埋まっていた道具などがみつき、昔の様子が分かることもあります。

◆古墳（こふん）…3 ページ

古墳とは、日本の昔の墓です。3世紀から7世紀（201年から700年）ぐらいに作っていました。土を小さな山のように高くして、その中に、亡くなった人を入れました。その地方の偉い人の墓だったと言われています。日本では、古墳を作っていた時代を「古墳時代」といいます。

◆遺跡（いせき）…3 ページ

遺跡とは、昔の人が生活していたことが分かる場所のことです。土の中には、と
きどき、昔の家や道や田んぼがあった跡が残っています。昔の人が使った道具
が残っていることもあります。

◆板付遺跡（いたづけ いせき）…5・6 ページ

板付遺跡は、福岡市の板付という場所にある2700年ぐらい前の遺跡です。米を
作っていた人たちの遺跡の中で、日本でいちばん古いものの1つです。今は、村や
田んぼが元のように作られています。昔の道具を使って、昔の人の生活を知る
ことができます。

◆弥生時代（やよい じだい）…5・6 ページ

今から2700年ぐらい前から1700年ぐらい前までの時代を「弥生時代」といいま
す。そのころ、日本では米を作る農業が始まりました。

◆弥生人（やよいじん）…5・6 ページ

弥生時代に、日本に移動して住むようになった人たちのことを「弥生人」といいま
す。弥生人には3つの種類があります。今の中国や韓国の方から来た人を「大陸
系弥生人」といいます。弥生時代の前の「縄文時代」から日本にいて、新しい文化
を知った人たちを「縄文系弥生人」といいます。この2つ種類の弥生人から生まれた
人を「混血系弥生人」といいます。

◆堅穴住居（たてあなじゅうきょ）…5・6 ページ

堅穴住居とは、昔の日本の家の作り方です。3万年以上前の「旧石器時代」から1000年ぐらい前までありました。土を低く掘って、木で作った長い「柱」を縦や横に組み合わせます。最後に土や草で屋根を作ります。

◆金印（きんいん）…7・8 ページ

「金印」は、とても古い時代の「はんこ」で、日本の国宝（国の宝）です。漢という国の王が、日本にあった「委奴国」という国の王にあげました。「漢委奴国王」という字のはんこです。江戸時代の1784年に、志賀島で見つかりました。福岡の城の主人がずっと持っていました。今は福岡市の博物館に置いてあります。

◆国宝（こくほう）…7・8 ページ

国の宝のことです。日本の大臣が、特に大事な文化財の中から、特別に選びます。

◆印（いん〔はんこ〕）…7・8 ページ

人や団体や、仕事のためにつかう「しるし」のことです。書類にはんこを押し、その書類が本物であることや、大事であることを表します。はんこは、木や石などに文字を彫ってつくりします。

◆金印公園（きんいん こうえん）…7・8 ページ

金印公園は、福岡市東区の志賀島にある公園です。1784年、この場所で農業をしていた人が「金印」を見つけたとされています。公園では、昔の地図や、中国の歴史家の詩を見ることができます。また、海や近くの島がよく見えます。

◆鴻臚館（こうろかん）…9・10・11 ページ

鴻臚館は、外国と交流するための建物で、7世紀から400年間ぐらありました。福岡市中央区に遺跡が見つかり、今は、歴史を勉強するための広場と「展示館」という建物があります。展示館では、遺跡の一部や、昔のように作った建物や、遺跡から見つかった中国の食器などを見ることができます。

◆遣唐使（けんとうし）…9・10 ページ

遣唐使は、昔、勉強のために日本から「唐（今の中国）」という国に行った人たちのことです。中国のすぐれた文化を日本に伝えるために、一度に数百人の人が、いくつかの船で出掛けました。それから日本の政治や文化がよくなりました。630年から894年までの間に10回以上中国に出発しました。船で行くのは大変で、途中で失敗して壊れてしまうこともたくさんありました。

◆万葉集（まんようしゅう）…9・10・11 ページ

「奈良時代（710年から794年まで）」の和歌（日本に昔からある詩）を集めたものです。今残っている和歌の集まりの中で、いちばん古いです。20冊あり、全部で4500くらいの和歌があります。いろいろな人が和歌を作っています。日本の中心

だった奈良から遠くにある東でできた「東歌」や、九州で国を守っていた人たちが作った「防人歌」などの種類の和歌もあります。人の気持ちを、素直に、分かりやすく表した和歌が多いです。

◆出土品（しゅつどひん）…9・10 ページ

出土品は、土の中から出てきた昔の食器などの「物」のことで、「遺跡」などから、昔の人が生活して残した物が見つかります。

◆元寇防塁（げんこうぼうるい）…13・14 ページ

1274年に「元」という国が日本に攻めてきました。元寇防塁は、元がまた攻めてくる時のために作った石の壁です。海の近くに石を積んで、20kmもある長さの壁を作りました。今も、福岡市に壁がいくつか残っています。

◆元軍（げんぐん）…13・14 ページ

鎌倉時代（1185年ごろから1333年まで）に、「元」という国の軍隊が2回、日本に攻めてきました。元が日本に攻めてきたことを「元寇」、元の軍隊を「元軍」といいます。1回目は1274年で、「文永の役」といいます。2回目は1281年で「弘安の役」といいます。

◆陶磁器（とうじき）…12 ページ

陶磁器は、土や石の粉に水を混ぜて形を作り、焼いて作った硬い入れ物です。柔らかい土で作った形をよく乾かした後に「うわぐすり」という特別な材料をかけ

て、高い温度で焼きます。

◆発掘調査（はくつちょうさ）…12 ページ

土の中には、昔の人が生活した跡（遺跡）が残っていることがあります。でも、道路や建物を作るときに、工事で壊れてしまうかもしれません。ですから、工事をする前に、その場所に遺跡があるかどうか調べます。これを発掘調査といいます。発掘調査では、丁寧に土を掘って、昔の人の生活を記録します。

◆筑前国（ちくぜんのかくに）…15・16 ページ

昔の日本は、「国」という呼び方で地域が分かれていました。今の福岡県の北西の部分は「筑前の国」という名前でした。

◆大濠公園（おおほり こうえん）…15・16 ページ

福岡市中央区の大濠公園には大きな池があり、日本でも有名な公園です。この池は、昔、城を守るための「堀」でした。1927年に、この場所で「博覧会」という大きな催しがありました。催しのために、堀を半分埋めて、今の大濠公園ができました。

◆福岡市赤煉瓦文化館（ふくおかし あかれんが ぶんかかん）…19・20 ページ

赤煉瓦文化館は、福岡市中央区天神にある「れんが」の建物です。「明治時代」の1909年にできました。東京駅を作る計画をした辰野金吾さんと、昔の福岡市役所を作る計画をした片岡安さんが、建物の計画を作りました。建物は誰でも入るこ

とができます。

◆櫛田神社（くしだ じんじゃ）…21・22 ページ

櫛田神社は8世紀（701～800年）にできたと言われる神社です。「博多祇園山笠」の祭りをする神社で、「山笠」を一年中飾っています。博多の町を守ってくれるので、大切にされていて、博多の人たちは「お櫛田さん」と呼んでいます。

◆博多祇園山笠（はかた ぎおんやまかさ）…21・22 ページ

博多祇園山笠は7月の祭りです。昔、博多に病気が広がった時、お坊さんが水をまいて、病気がなくなるようにお祈りしたのが始まりだそうです。たくさんの人で走りながら運ぶ、「鼻き山笠」と、人形などで飾って、見て楽しむ「飾り山笠」があります。

◆埋蔵文化財（まいぞうぶんかざい）…25・26 ページ

土の中を調べて見つけた文化財のことを「埋蔵文化財」と言います。昔の様子
が分かる場合があります。

◆保存処理（ほぞんしょり）…25・26 ページ

文化財は、土の中に長い間あると、腐ったり壊れたりしてしまいます。土の中から出した後、文化財に特別な薬や材料を使って、そのままの状態
で取っておけるようにします。これを保存処理と言います。